

A. Sharma (eds.), Chromosome evolution of eukaryotic groups 2, pp. 103-141.
Wang, Z.R., Q. Xia & Z.X. Zhang 1984. Acta Bot. Sinica 26: 595-604.

* * * *

前報に続いて、シダ植物10種の染色体数を報告した。調査した種類は、29) ヤリノホクリハラン、30) アマシシダ、31) クラガリシダ、32) イワヒメワラビ、33) シンエダウチホングウシダ、34) カニクサ (ナガバカニクサに該当する個体)、35) クジャクフモトシダ、36) ミミガタシダ、37) ハチジョウシダ、38) アンガタシダである。クラガリシダは長野県産の株で $2n=104$ が観察されたので、 $x=26$ の4倍体か $x=52$ の2倍体と考えられる。台湾から $n=36$ が報告されているが、再確認の必要があろう。シンエダウチホングウシダでは $n=c 130$ が知られていたが、奄美大島産の株で $2n=204$ が観察された。この個体の孢子形成は異常で大型の充実した孢子もできるが、萎縮した孢子が多く形成される。これらの結果から、シンエダウチホングウシダは細胞学的に多様な species complex とみなせる。ハチジョウシダでは伊豆諸島産の2個体で小型染色体を2本含んだ $2n=89$ の異数体が見いだされた。充実した孢子が形成されるので無配生殖型をすると考えられる。

□正宗敬敬：日本の自生蘭 写真と図 第六集 91 pp. 1990. 自費出版. ¥15,000. この巻で一応完結であるが、日本の自生ランの過半数を記述したとのことで、シャープなカラーの拡大写真は見事である。早春落葉広葉樹林という名称が、春咲きの地生ランの生育地として、新たに採用されている。全6集の和名・学名の索引が巻末にある。

(金井弘夫)

□菱山忠三郎：高尾山 花と木の図鑑 231 pp. 1990. オリジン社、東京 (主婦の友社発売). ¥1,950 (税込). 高尾山は東京都心から遠くない所にありながら、暖温両帯林の境目にまたがって天然林が広く残り、植物相も豊富である。著者は永年この山を含む多摩地方の植物を調査研究し著書も多い。この本はドクダミ・レンゲソウ・ヒメジョオンといった人里に普通なものを除いた555種を808枚のカラー写真で解説したものである。ほとんどのページに3~5枚ずつ、特に花や果実の接写はよく特徴を捉えていてわかりやすい。スミレの類・マタタビ類・キイチゴ類・明るい所の野草・林下の野草などの区分も適切である。高尾山ハイキングコース11路線別、季節別に観察できる植物の一覧表が付いていて、植物探訪に便利に使える。巻末に高尾山で最初に発見され発表された植物63種類についての解説がある。

(伊藤 洋)